

# 社会に開かれた教育課程

明星大学教授  
吉富芳正

中央教育審議会教育課程企画特別部会の「論点整理」（平成27年8月26日）では、新学習指導要領の方向性を示すに当たり、これからの時代における初等中等教育が果たすべき役割を、教育課程を通じて描き出そうとしている。その基本的なコンセプトが「社会に開かれた教育課程」である。「社会に開かれた教育課程」とは、学校教育が、ひいては子供たちが社会や世界とつながり、よりよい社会と自らの人生を積極的に創り出していける力を育成しようとする考え方である。

## 「社会に開かれた教育課程」を目指す背景

社会の変化への対応は、ここ数次にわたる学習指導要領改訂において大きなテーマとなってきた。前回の改訂以降も、グローバル化、情報化や技術革新、少子高齢化をはじめとする様々な社会の変化は、複雑に関係しながら加速度的に進んでおり、先を予測することが難しい。それらは、今後私たちの生活に大きな影響を及ぼし、様々な問題をもたらし続けるであろう。子供たちは、その社会の変化の中に生き、困難な問題の解決に取り組んでいかなければならない。子供たちの教育をあずかる学校は、変化する社会の中に存在することを強く意識し、自らが果たすべき役割を一層

明確にする必要がある。

このため、今回の学習指導要領改訂においては、これまで以上に、学校が社会の変化に正面から向き合い、教育活動の基軸となる教育課程に社会の変化への的確な対応を積極的に織り込んでいくことが求められる。「論点整理」では、次期学習指導要領の実施期間も考慮して2030年以降の社会の在り方を見据え、学校が社会や世界との接点を広げ多様なつながりを重視し、全体を見通した体系的な教育課程を編成・実施することを求めている。その中で、子供たちが主体的に学び、新しい時代を切り拓いて生きていくために必要な豊かな資質・能力を育むことを目指そうとしている。

## 「社会に開かれた教育課程」を考える三つの視点とこれからの学校

「論点整理」では、「これからの教育課程には、社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく『社会に開かれた教育課程』としての役割が期待されている」とし、そのポイントとして次の3点を示している。

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目

標を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。

③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

これらの趣旨を踏まえると、これからの学校においては、教職員一人一人が自分たちの教育活動が子供たちの成長と社会の創造にどのようにつながっているのかを広い視野から改めて考えることが大切である。その上で、各学校、各学年、各教科等として、目指すべきことや果たすべき役割を明らかにしていくことが求められる。子供たちが

よりよい生き方や社会の創造に向かうことができる豊かな資質・能力を育成する観点から、教育の目標、内容、授業時数、指導や評価の方法などを適切に設定するとともに、全体の中での相互の関わりを常に意識して教育課程を編成し着実に実施していく必要がある。

さらに、そのような教育の効果的な展開のために学校内外のあらゆる資源の活用にも努めるとともに、教育課程の考え方や取組を保護者や地域の人々に積極的に伝え、子供たちの学校外の生活や活動とのつながりを大事にしていくことが重要である。

このように考えると、「社会に開かれた教育課程」を推進していく上で、教育の本質を踏まえつつ、広く全体的、俯瞰的な視野をもつこと、子供たちの成長と教育に関わる様々な要素の意義や役割を十分検討するとともに、それらを意図的、積極的につなぎ、構造や体系を明確にしていくことなどが重要な鍵になるということが出来る。

## 資料● 社会に開かれた教育課程について

### 1. 2030年の社会と子供たちの未来

#### (1) 新しい時代と社会に開かれた教育課程

○ これからの教育課程には、社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく「社会に開かれた教育課程」としての役割が期待されている。

このような「社会に開かれた教育課程」としては、次の点が重要になる。

① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。

③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

○ このためには、教育課程の基準となる学習指導要領及び幼稚園教育要領（以下「学習指導要領等」という。）も、各学校が「社会に開かれた教育課程」を実現していくことに資するものでなければならない。

○ さらに、こうした教育課程の理念を具体化するためには、学習・指導方法や評価の在り方と一貫性を持って議論し改善していくことが必要である。

（中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」より抜粋）